

## 高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業 「学習成果発表の場事業」

### 「歴史講演会 卑弥呼から現代へ」を開催しました。

令和元年6月30日（日）、講師に浅井能延さんをお迎えして 学習成果発表の場事業「歴史講演会 卑弥呼から現代へ」と題し講座を開催しました。あいにくの天候にもかかわらず、90名ほどの方が受講されました。

浅井さんは、古代史に興味をもち、30年にわたり独自に研究をされ、全国の遺跡や博物館を訪れたり著名な学者の講演を聴きに行かれたりしています。これまでに幾度か生涯学習センターにて講義をされていますが、これまで歴史研究してきた集大成として今回この講座を開催されました。日本の古代から現代に至る様々な歴史を日本の文献のみならず、中国、朝鮮半島の文献や事件を基に考察されています。

講演は、日本が卑弥呼の時代以前から大陸との関わりがあったことから話され、ご自身が歴史に興味を持たれたきっかけとなった、小説にもよく題材とされる戦国時代や幕末維新の事件について話されました。特に、関ヶ原の戦いにおける東軍と西軍の駆け引きや、徳川家康の勝利を決定づけたと言われている小早川秀秋の動向についての話は多くの受講者が惹きつけられました。また、歴史は勝者となった一方の当事者から語られる文献は多くあるが、敗者からは語られているものは少ない、との指摘がなされました。常に多方向から史実をみることの重要性を言われました。この講演にて話された事件各々についても同様の考察がなされています。



多くの学者によって研究がなされている、邪馬台国の話に進まれました。邪馬台国のあった場所を特定するために、多くの文献を探され、また各地の古墳や遺跡を訪ねられたそうです。歴史をいろいろな見方や学説を文献や史跡から推考することは歴史研究の醍醐味の一つであろうことを感じました。

次に、朝鮮半島と直接関わりを持つことになる、元寇（文永・弘安の役）及び倭寇、豊臣秀吉による朝鮮出兵（文禄・慶長の役）へと進みます。ここでも関連

の遺跡を訪ねられ、弘安の役で沈んだ蒙古の船の遺物が展示されている鷹島歴史資料館などに行かれています。元寇は、蒙古と高麗の連合軍だと分かって、ますます日本と朝鮮との関係について興味を持たれたそうです。秀吉による朝鮮出兵は、明国を攻略する目的で朝鮮を先ずは従えさそうとして朝鮮半島に攻め入った事件です。平壤付近までは快進撃を続けましたが、朝鮮の義兵や明軍の参加により次第に退却をよぎなくされ、秀吉の死後撤退し、朝鮮の役は終焉しました。これ以降、鎖国をしていた日本が、明治維新により開国され、海外諸国との関係や交渉が増えていきました。そして、明治43年の日韓併合に関わりのある事件が、西郷隆盛の征韓論を皮切りに次々と起こります。

次に現代の日韓の大きな問題の一つである「竹島の帰属問題」へと移ります。日本、韓国ともに領土と主張する根拠となる文献を挙げられ、決着は二転三転として一筋縄ではいかぬことを示されました。また、「従軍慰安婦問題」、「仏像盗難事件」、「レーダー照射事件」など考えなければならない課題は多くありましたが、最後は時間の関係で少し駆け足となったことは残念でした。

昨年に続き浅井さんには、歴史講演会を開講して頂きました。受講者の多くは、歴史への興味とそれに対するアプローチの方法の多様性を感じたのではないかと、思いました。